



皆さん、こんにちは。獣医師の杉本と申します。

私は東京の外れの方、千葉県の川を挟んですぐ隣のところで開業しております。

本日は動物看護職の重要性について、動物病院の現場から、今、どういう状況が起きていて、今までの看護職の仕事内容よりも、さらに病院内での仕事分野が多様化し看護職の必要が高まってきているという観点からお話させていただきたいと思います。



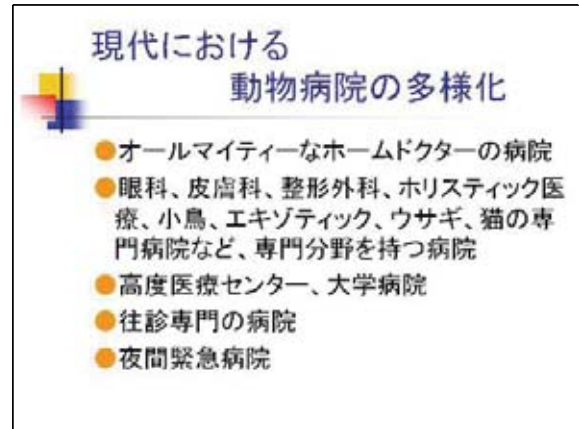
【スライド1】

私が開業したときには動物の看護職はありませんでした。皆さんの発表にも示されていましたが小動物獣医医療の発展の中で、私たち獣医師のパートナーとなるべく、日本においても動物の看護師の職としての教育場ができるようになりました。そして看護師と共に働く体制の病院運営になりました。

その中で12～3年前ですが、私の中で目指す病院のあり方が、西洋医学と動物たち本来の治癒能力を活かしていく医療としての代替医学の両立を目指して行こうと思います。そして、昨年「南小岩ペットクリニック」という名称から「南小岩ペットクリニック医療サポートセンター」という名前に変えました。動物医療をより活用していただくためには、医療の現場だけではなく、動物たちの健康を支える、そして生活を支えることを飼い主様と共に一緒にやっていかれるような場でありたい。獣医師、看護師、そして飼い主様、いろんな関係の方たちが協力して医療活動を目指していきたいという目的からで

す。

それでは看護師の現在における動物病院の役割を見ていきましょう。【スライド1】



【スライド2】

今までは看護・受付・掃除・事務を行うオールマイティーな仕事として看護師の職がありました。しかし仕事の多様性が問われる事と獣医医療の進歩と共に動物病院の中での看護のあり方も変化してきました。さらに獣医師にとっても、眼科専門の病院、歯科専門の病院、整形外科を主体とした病院、神経科を得意とする病院、針や代替療法を取り入れた病院、エキゾチックアニマルや鳥類を対象にした病院など、それぞれ専門領域、専門分野を持つ病院が生まれてきました。それでこれはどういうことかと言うと、これらの中で看護師自身が自分の適性や自分の希望する専門分野や病院を選んでいける時代となったと言えると思うのです。そしてまた高度医療センター、専門病院、大学病院などと、地域の動物病院は連繋をより活発にできる状況になってきました。こういった獣医療の多様性の中、看護師を育てていく学校教育も更に充実したカリキュラムの中で、現状を見据えた対応がなされていくことでしょう。それが新しい時代における動物病院と看護師の仕事になってくるのだと感じています。【スライド2】

動物病院の多様は、その中でそれぞれ学んできたことを、実際の医療の現場でどのように活かしていけるのか、それぞれの医療の場で対応状況は個々の病院としてだけでなく、病院のポジショニングによっても様々な仕事が明確になってくると思います。専門分野の技術を担当する看護師がおられるだろうし、診察時や入院の動物たち

動物病院の診療業務の中での 動物看護師の役割

- 診察時の保定や助手として
- 多種に渡る検査の助手、担当者として
- 入院管理、手術時の管理、助手として
- 獣医師の行き届かない場面での飼い主様とのコミュニケーションによる食事管理、入院時の案内や報告などのサポートとして

【スライド3】

のお世話をしながらニコニコと優しい看護師、飼育指導や処方食の説明ができる看護師。そして不安・心配といった状況の飼い主様に配慮ができること。診察・処置中で獣医師が飼い主様と直接会話のできない時、看護師としての役割を持って飼い主様から状況を聞いておく、診察時の検温・検査などの準備を進めておく。そういったことをしっかりやっていただくことで獣医師は「看護師がやってくれているという安心感」があつてこそ、前を向いて医療に取り組んでいけます。その他に受付業務、会計業務、薬品などの発注管理、クレーム処理（獣医師または院長が担当することも多いと思います。）等の業務を看護師が兼務する場合、または担当者のサポートに付く場合もあります。【スライド3】



病院内で動物看護師の存在なくして、我々獣医師はより精度の高い、細やかな配慮に支えられた医療を実現することができるのであろうか！！

【スライド4】

そういった病院業務の多様化、人と動物の絆が深まり、かけがえのない家族としての動物の存在感が高まっている中で、私たち獣医師の仕事の質は大きく向上していきます。30年以上前の動物病院の診療の進め方。対応とは変化してきています。やはり動物病院の質の改善をしなければなりません。その中で診療にあたる獣医師の負担というのは、今までよりも更に増えています。そんな時に看護師がいろいろな形でサポートし、獣医師と一緒に動いてくれることで、私たち獣医師はしっかりした医療提供が出来、獣医師業に向かい合いながら、そして動

物たち、飼い主様とも十分なコミュニケーションすることが出来ます。病院内で動物看護師がいるのが必要かつ当然の時代になってきました。このような背景の元、動物看護協会が立ち上がったのはすごいと思います。更に看護職は統一した制度の中で社会に認められる資格化に向け動き始めています。私は看護師を守る資格化の重要性と共に、人としての看護職の質が重要だと思っています。

【スライド4】

みなみこいわペットクリニック 動物看護師の仕事



【スライド5】



【スライド6】

まず受付をしてくださる人、ニコニコと気持ちよく、不安を与えず、動物や飼い主様に対応出来る看護師はありがたい存在です。そして、その中で私たち獣医師が働きやすいように、どういう状況で飼い主様に言われたかということを中心にメモを書き、そして診察のカルテの中に情報はさみ伝達してくれる、その時のコミュニケーションはとても大切です。飼い主様が安心なされる時もあるし、時には怒ってしまうこともあるし、そしてコミュニケーションが悪ければ診察で更に時間がかかるということもあります。この受付業務というのは受付嬢的な「はい、いらっしゃいませ」という対応ではなく、動物病院での専門職としての技能が問われる場であります。適切な伝達と次の仕事の流れへとセッティングし、緊急時や必要なこと、現状の報告を入れながらつないでくれることでクライアントを待たせる時間が短縮するだ

けでなく、スムーズな診療へとつながります。

【スライド5】【スライド6】



【スライド7】



A B t B / B B : A



A B t B / B B : A



A B t B / B B : : A



A B t B / B B : : A



A B t B / B B : : A



A B t B / B B : : A

o E ~ r E t S M o ç
 % t C \ q p M ' £ x w s ~ r
 ¶ t O \ q U Z R b { o 4 z t Z ?
 ' z ~ w j z , w w < z ~ s r w ; z
 P p w r g s r x § ^ < ' z Y < t ~
 o X q M O f l x f M ' £ w ~ w U " U
 q t m s U z ç x t E U † Z " w ~ t T
 \ q U p V B ¶ t B / B _ B : C > : : A
 p · ^ x z r b 8 ' ¶ w T t E 8 O
 o M \ q S Ø ' ' h { \ w E 8 O x s T s T



【スライド 14】

時間がかかります。この写真はマナーズ療法という音療法を実施しているところです。大体15分～30分くらいかかります。その時に看護師がついていてくれます。施療前に動物の症状に対応したセッティングをする時間を含めると30分以上かかります。その中で療法についての教育・指導をし、そしてもちろん獣医師の管理下ですが代替医療の一部を担ってもらうこともあります。こちらはしつけ教室にインストラクターとして参加しているところです。動物と飼い主様がどうやってコミュニケーションを深めていくか、基本的なしつけ・ゲーム等を通して学んでもらうチームです。その他に動物病院と飼い主様のコミュニケーションを深めるというためのカウンセリングをやっております。カウンセリングを実施して、家族としての動物たちへの飼い主様の気づきやどのようにコミュニケーションをし、日常生活の対応をサポートしたり、健康管理についてや、行動上の問題解決の指導をしています。その時の助手として看護職を学んだインストラクターがサポートしています。こちらは代替療法の一部であるホメオパシーです。診療し、処方した後、飼い主様へお渡しするまでの業務を担当してもらっています。【スライド 12～14】



【スライド 15】



【スライド 16】



【スライド 17】



【スライド 18】



【スライド 19】



【スライド 21】



【スライド 20】



【スライド 22】

最後に私たち獣医師は病院という現場で看護師と時には他の診療を支えてくれているスタッフとのチーム医療としての現状を未来へとつなぐ視点で見直していく時であろうと思います。そしてこの情報は、世界での動物医療、そして看護師の役割の現状と照らし合わせて考えていく必要があると思います。そういったすべてのことが一人一人の個人の心の中に社会人教養となり、そしてそれが大きな力となって動物医療がより充実し進歩していく道とつながるでしょう。このように日々高度な医療を含めいろいろなパートの医療を求められる中で、チームとしての思いやりは動物たちや飼い主様への配慮として医療を支える基盤となります。そしていろんなことに感銘する感性を持つことは人や動物の命の尊さ、そして動物の心、人の心に関わる仕事をしている私たちにとっては、かけがえのない医療人の資質でもあります。そして出会わせていただく多くの愛の中で育まれたコミュニケーションは又社会へも還元されます。今まで以上に社会に認められた資格となり、私たちの動物病院の中でのチームとしてのパートナーシップが築かれていくことに積極的に取り組んでいきたいと思っています。これからの看護師の活躍を応援しております。皆さん御清聴ありがとうございました。【スライド 15～22】